

★学校の教育目標		★重点計画の概要 学校は教育目標、目指す学校像達成のため、第4次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよこぎあふれる今と未来をつつていく力」の育成を学校経営の理念の中核とし、その中で、本校は児童が安全に、安心して生活する中で、児童一人一人が自尊感情や事故有用感を高めるため「児童の安全・安心プロジェクト」を行う。具体的には ①「特別の教科道徳」を校内研究として取り組み、児童の自尊感情や自己有用感を高める。特別活動を教育課程の中心に置き、特別活動と特別の教科道徳との往還を研究の中心とする。 ②生活指導については、「東光寺スタンダード」を浸透・徹底させ、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。保護者会や学校便りを通して、保護者・地域にも発信する。 ③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。地域・保護者ボランティアを授業や教育活動全般へ積極的に要請する。
★目指す学校像（ビジョン）		
【目指す児童・生徒像】	○自然を大切にし、優しい心で接する子供 ○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子供 ○健康・安全に心掛け、前向きな気持ちで生活する子供	
【目指す学校像】	○安心・安全な学校 ○子供が嬉々として登校し、自分の成長を実感する学校	
【目指す教師像】	「共に あたたく きびしく」 ○教職員同士、地域・保護者と共に ○報告・連絡・相談を迅速・密に ○服務事故ゼロ	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		
				取組指標	成果指標	
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【安心できる学校】 ①教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置き、安全で安心できる学校体制をつくる。 ②生活指導の充実を基盤として豊かな人間関係を醸成し、自他を大切にすること、正義感や自尊心・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	年3回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 ・スクールカウンセラーによる5年生への全員面接 ・年3回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 ・朝会等でのいじめ防止に関する講話	4 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が100%	4 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が90%以上	
				3 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が90%以上	3 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が80%以上	
				2 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%以上	2 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が70%以上	
				1 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%未満	1 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が70%未満	
		学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や実践方法を共通理解し、浸透・徹底を図る。また、保護者会や学校公開等の機会を通して、東光寺スタンダードの実践を保護者や地域の皆様に向け発信し、地域全体で子供たちのよりよい生活習慣づくりに取り組む。 〈主な取組〉 ・時間の厳守 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣 ・丁寧な言葉遣い ・他者を尊重した関わり方の充実 ・計画・代表委員会が中心となった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践等	4 東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上	4 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が80%以上	
				3 東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が70%以上	3 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が70%以上	
				2 東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%以上	2 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が60%以上	
				1 東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%未満	1 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が60%未満	
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	【子供たちがつくる学校】 児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊心を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の充実を図る。子供たちには実践を通した成就感を積み重ねることで自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を特別の教科道徳の授業研究推進、日常の道徳教育の充実に置き、日常の道徳教育充実に取り組む。	学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・児童会活動の進め方についても学級会での話し合いを生かし、児童の手によって計画などを決められるようにする。また、児童主体の取組を充実させる。 〈主な取組〉 ・教師用指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・委員会・クラブ活動の様子をオンラインを活用して全校に紹介 ・児童が主体となった学校をよくなるための取組	4 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が90%以上	4 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が80%以上	
				3 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が80%以上	3 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%以上	
				2 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%以上	2 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%以上	
				1 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%未満	1 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%未満	
		特別の教科 道徳の研究3年次として、特別の教科道徳の授業研究推進、日常の道徳教育の充実に取り組む。 〈主な取組〉 ・児童が学び合い、認め合う雰囲気や基盤とした特別の教科 道徳の研究 ・低・中・高学年3つの分科会で、それぞれの発達段階や特性に応じた研究の推進 ・学級担任・専科教員・つぐみ学級・ステップ教室の教員全員が3つの分科会に所属して行う研修の充実 ・代表委員会が考えたスローガン「思いやりの心をもって助け合える東光寺小学校」を基に、東光寺小学校をよりよい学校にしようとする決意をもたせる。 ・児童の変容を評価する取組の充実。	4 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が90%以上	4 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が80%以上		
				3 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が80%以上	3 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が70%以上	
				2 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が70%以上	2 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%以上	
				1 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が70%未満	1 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%未満	
社会と未来に開き、みんなで作る	【地域共創】コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、地域の自然の素晴らしさや生物を育てる喜びを通し、“いのち”の尊さを実感させる。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 ・全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊、4年生はパンジー、3年生はコスモス、2年はミニトマト、1年はあさがお） ・農業活動の体験を通した「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4 “いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が90%以上	4 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が90%以上	
				3 “いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が80%以上	3 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が80%以上	
				2 “いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%以上	2 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が70%以上	
				1 “いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%未満	1 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が70%未満	
	経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。		地域の協力により、農業体験をはじめとして地域との協働的な学習活動を展開できている。今後は、地域の方々への感謝を具現化できるよう、児童自身が地域の活動に参加し、主体者として地域の活動に関わる経験を積ませていく。 〈主な取組〉 ・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく。	4 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が90%以上	4 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が80%以上	
					3 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が80%以上	3 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が70%以上
					2 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が70%以上	2 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が60%以上
					1 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が70%未満	1 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が60%未満

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。